

2. おんぶおばけ

むかしむかし、とてもおくびょうだけど心やさしい男が山道を歩いていると、どこからともなく、こわーい声がします。

「・・・おんぶしてくれえ～、・・・おんぶしてくれえ～」

「ひっ、ひゃあー！ お化けだあっー！」

男が逃げても逃げても、お化けの声はどこまでも追いかけてきます。

「・・・おんぶしてくれえ～、・・・歩けなくて、・・・困ってるんだ。・・・たのむ」

「・・・・・・・・」

その声を聞いて、男はお化けがかわいそうになりました。

「わかった、おんぶしてほしければ、おぶされ」

すると男の背中に、お化けが、ズシン！ と、のっかりました。

「おっ、おもてえ！ お化けって物は、もっと軽い物だと思っていたが、まあしかたない。しっかりつかまったか？ いくぞ！」

男は目をつぶって、いちもくさんに帰りました。

男はなんとか家につきましたが、背中の重いお化けは乗っかかったままです。

「もう、おろすぞ」

男がおそるおそる背中の物を下ろしてみると、なんとそれは小判がぎっしりと詰まった大きなつぼだったのです。

その時、どこからかお化けの声が聞こえました。

「ありがとう。人に使われて喜ばれる為に生まれてきたのに、もう何十年も山にすてられたままだったんだ。どうか大事に使っておくれ」

おんぶお化けの正体は、山にすてられた小判だったのです。

こうしておくびょうだけど心やさしい男は、小判を上手に使ってお金持ちになりました。

おしまい